

第5回日野市地域福祉計画策定委員会 議事要旨録

- 開催日時 平成22年3月4日（木） 18時30分～20時30分
- 場所 日野市役所 4階 庁議室
- 出席者 委員15名（公募市民2名、有識者2名、関係機関7名、行政職員4名）

1 開会

2 会議録について

事務局：議事録を公開したい。委員会において今回、了承いただき、要点録を公開していきたい。事前に再度、委員の皆さんに確認をしていただきたい。

3 議題

（1）第4回策定委員会後の日野市地域福祉計画（案）の変更点について

事務局：【資料3-1】日野市地域福祉計画素案及び【資料3-2】前回からの日野市地域福祉計画素案の主な変更点を用い、主な修正点を説明。平成21年12月以降、パブリックコメントや住民説明会、関連団体への説明会、市民委員との個別打合せ、庁内調整委員会などを実施し、その結果を踏まえ修正を行っている。

会長：パブリックコメントを踏まえて、修正を行っている部分もあるため、パブリックコメントについて説明を受けてから、意見を伺う。

（2）パブリックコメントについて

事務局：【資料3-3】日野市地域福祉計画（素案）に対する意見・提案一覧に基づき、説明。述べ件数で41件の意見をいただいている。主には計画の参考とするものが多い。

会長：パブコメは記名式か。

事務局：記名式である。この資料をホームページで公開する。

委員：ホームページで公開するという話だが、高齢者等はホームページを見る人は少ない。

事務局：素案を公開したときに、図書館や支所等において行ったため、そういった場所での公開も検討する。

会長：意見をいただいた方に丁寧に説明することは重要である。27番のサロンにこれない人に対する対応の文章を検討する必要がある。サロンに行けない人のほうがリスクが高い。重点プロジェクトを通じて、今後検討していくほうがよい。

副会長：古い住民と新しく来た住民との意思疎通ができていないという問題がある。近所の人が昔話をできるサロンがほしいということを最近聞いた。また、自治会加入者が減ってきているが、加入しない人はメリットがないという。何かメリットを明確にする必要がある。

会長：今後、モデル地区で実施していくときに、老人クラブや自治会に入っていない人をどうしていくかという課題がある。

委員：平山台で地域住民やNPOと連携しながらイベントを実施している。この企画の中で、平山台

の現在と過去ということをやったときに、写真を集めたが、その際に写真を見ながらさまざまな世代が話す機会になった。ふくし住区ごとにこのような企画をやると面白い。小学生がおじいちゃん、おばあちゃんなどに聞くということでも良いと思う。そういった仕掛けをしていくと良い。

会長：社会福祉協議会でも活動計画を策定しているが、いかがか。

委員：地域福祉計画の整合性ということで、サロンの立ち上げに重点を置いている部分もあるが、地域福祉いきいき活動プログラムのイメージで進めている。市の地域福祉計画と整合性の取れている計画になっている。

会長：サロンは重要であると思うが、グループのため馴染めない人もいる。サロンだけでなく、地域の中で、写真や歴史など得意な人が講師となり交流になるなど、地域福祉活動を広くとらえると良い。また、神奈川県社協で地域コーディネーターの概念を打ち出しているが、今後、ふくし住区の中で検討する必要がある。

委員：平山台でサロンをやりたいという話で、カフェで自由なサロンを実施している。地域の中で、講師をする人がいたりするなどイベントを通じて、人材発掘をしている。地域の状況に応じた交流ひろばができればよい。

会長：ミニミニサロンは、少し固定的になる部分がある。ある程度自由なものになると良い。

委員：自治会にも入っていない人や老人会に入っていない人で一人暮らしの人が多い。年代別で食事会のようなことを実施している。老人会に入っている人が多いが、友達を誘ってきたりして、今まで老人会に入っていない人が加入したりしている。

委員：ふれあいサロンの状況の中で、高齢福祉課で実施しているものと社会福祉協議会で実施しているものがあるため、明記したほうが良い。

会長：今後の予定はどうか。

事務局：3月10日に入稿予定であるため、火曜日までに修正があればお願いしたい。

委員：まちのすがたで体系図と整合をとる。また、用語説明のNPOの部分を見直したほうが良い。

委員：NPOとNPO法人も異なるため、検討したほうが良い。

会長：NPOとNPO法人を入れていく。

ふくし住区についてだが、重複している部分もある。このエリアを中核にしながらふくし住区を実験的に行う。実際の活動はご近所同士が多いが、アクションプランを通じて、今後検討していくことが良い。

4 その他

事務局：用語説明については、再度確認する。実際のアクションプランについては、できる地域から実施し、徐々に展開していきたい。交流ひろばについても、ミニミニサロンだけでなく、平山台のようなものでも良いと思う。いろいろな形で良いと思うため、社会福祉協議会と連携しながら実施していきたい。人材がいる地区や高齢化率が高い地域で実施していきたい。知恵と力を今後お借りしたい。

また、計画のため、引き続き、地域福祉委員会を開催しチェックをしていく。できることから広げていきたくと思うので、みなさんにご協力いただきたい。

会長：今回の計画では、プロジェクトを立ち上げ、地域福祉推進委員会で確認をし、できるところか

ら実施していく計画であり、ぜひとも実行していただきたい。

委員：社会福祉士という専門的な部分でも高齢者に特化するのではなく福祉全体という視点でできることは実施していきたい。

5 閉会